



2025 年 7 月 11 日

各 位

会 社 名 ASAHI EITO ホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長 星 野 和 也
グループ CEO
(コード 5 3 4 1 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 管理本部 経営管理部長 三 宅 久 史
T E L (0 6) 7 7 7 7 - 2 0 6 7

祖業の黒字化への取り組み、アジア戦略の見直し等の事業構造改革について

当社グループは、2024 年 8 月 27 日付プレスリリース「新たな ASAHI EITO グループへの転換」にて公表した通り、現在、以下の 3 項目を重点施策として経営改革を押し進めて参りました。

- (1) 祖業であるアサヒ衛陶株式会社の黒字化
- (2) グループとしてのアジア展開
- (3) 新しい挑戦への取り組み

当社グループは、本日 2025 年 7 月 11 日付適時開示「役員報酬の減額に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、本日開催の取締役会において、経営責任を明確にするため、役員報酬の減額の実施を決議いたしました。

また、本日開催の取締役会において、祖業であるアサヒ衛陶株式会社の黒字化を含む衛生陶器事業に関して事業構造改革を行うこと、当社グループとしてのアジア展開に関して方向転換を行うことを協議いたしました。

以下、その内容についてお知らせいたします。

記

1. 事業構造改革を行う方針とした背景及び概要について

当社の祖業である衛生陶器事業を取り巻く環境としては、アサヒ衛陶株式会社単体で 2008 年 11 月期に売上高 50 億円を割り込んで以来、右肩下がりの状況が継続しておりました。また、日本経済の成熟化や同業大手による寡占化が進捗する中、衛生陶器事業のみで企業価値向上を目指す事は困難と考え、事業の多角化を進め、2023 年 6 月に純粋持ち株会社へと組織改編を行いました。

また、2024 年 8 月 27 日にはプレスリリース「新たな ASAHI EITO グループへの転換」を公表し、経営改革を更に推し進めることを宣言させて頂きました。

以降、祖業であるアサヒ衛陶株式会社の黒字化を達成する為、様々な視点から赤字の原因の分析とその改善、結果としての祖業における経営資源の選択と集中について当社取締役会にて議論を行って参りました。

今回、当社の祖業である衛生陶器・洗面機器事業において恒常的な赤字となっている原因と今後の対策についてお知らせするとともに、当社グループの成長戦略について改めてお知らせいたします。

2. 祖業であるアサヒ衛陶株式会社の黒字化について

まず、当社では現在の状況を招いた原因について、経営陣がその責任を取り、自ら襟を正すべきとの考えから、本日 2025 年 7 月 11 日付適時開示「役員報酬の減額に関するお知らせ」でお知らせしました通り、当社取締役及び完全子会社の取締役の報酬を業績改善の見通しがつくまでの期間、減額を行う事を決定しました。

その上で、2025 年 11 月期中に、不採算取引の見直し、グループ各社における効率的な運営を行うための管理部門の統合化、不採算部門の見極め等を段階的に実行して参ります。

結果、2026 年 11 月期以降における売上高販管費率を逡減させ、祖業における黒字化に対し、断固たる姿勢で改革を行います。

一方、事業内容に関しては、経営資源の選択と集中を行います。

まず、経営資源を注力して売上増を目指していく分野として、当社グループであるアサヒ衛陶株式会社、山本窯業化工株式会社が協力して営業を行う「ホールディングス事業開発事業部」が挙げられます。

当社グループは、2024 年 10 月 25 日付プレスリリース「「ホールディングス事業開発グループ」創設に関するお知らせ」にてお知らせしました通り、ホールディングス事業開発グループを創設し、各社のお客様を横断的に営業出来る仕組み作りを行って参りました。また、今後は、当社グループであるアサヒエレベーション株式会社とも連携し、関西のみならず、関東及び九州地方でも案件の受注を増やして参ります。

今後も、各社における顧客の共有や横断的な営業戦略を加速させ、グループ一丸となって売上拡大及び事業発展に注力していく所存です。

3. グループとしてのアジア展開の転換について

当社は、2011 年 5 月 20 日付適時開示「ベトナムにおける子会社設立に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、2011 年 7 月にベトナム社会主義共和国ホーチミン市に子会社 VINA ASAHI Co., LTD.（以下、VINA）を設立し、アジアへの進出を行いました。また、2023 年 8 月 2 日付プレスリリース「ベトナム事業推進プロジェクト「Challenge Vietnam」不動産開発に係る大口案件獲得を目的とした専門チーム発足のお知らせ」にてお知らせしたとおり、コロナ禍後の 2023 年 6 月 28 日には「Challenge Vietnam」プロジェクトを決議し、営業活動に注力して参りました。その中で現地有力法人とのコネクション構築や現地での委託生産体制の確立等の成果があったものの、社会主義国家であるベトナムでのビジネスは時間軸や商慣習が日本とは大きく異なり、当初想定していたような成果を挙げられていない状態です。その結果、2024 年 11 月期においては、VINA 単体での営業損失が 4,342 万円となり、グループ全体での事業構造改革を推進している現在、VINA の現状を看過する事ができなくなりました。

これまでベトナムでの衛生陶器事業拡大については、投資家の皆様にもその進捗に関して、積極的

にお知らせを行って参りましたが、今後、当社グループのアジア戦略について方向転換を行う予定です。

VINAにおいては、現地での法規制、コンプライアンス体制を遵守した上で、新たな存続形態を模索し、加えて、これまで培ったベトナム以外の国々におけるアジアでの協力企業と共に、住まいと暮らしに関わるビジネスを行なって参ります。

ビジネスの形が具体的になり次第、お知らせして参ります。

4. 新しい挑戦への取り組みについて

当社グループは2024年7月12日付適時開示「子会社設立及び新たな事業の開始に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、新たな挑戦として「希ガス」事業に参入する事を公表しております。これまでプレスリリース（PR情報）や適時開示にてお知らせさせて頂きました通り、「希ガス」事業は徐々に収益化への道筋が出来てきております。

「希ガス」事業を担う当社グループである株式会社アサヒピュアケミにおいては、半導体分野でグローバルに活躍の出来る有能な人材を積極的に採用していく予定であり、当社グループの2026年11月期以降の成長戦略の柱の一つとなっていく事業として捉えております。

5. 今後の見通しについて

今回の事業構造改革が現時点で当社の2025年11月期の連結業績に与える影響については、改革の進捗により未定であり、開示すべき事項が発生した場合には、速やかに開示を行って参ります。当社グループとしては、早期の黒字安定化と中長期的な企業価値向上に努めて参ります。

以上